

MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

2017年10月号



発行人：濱塚有史 編集人：向平悟 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1

「つながる」

高 彰希 (立教大学YMCA卒業生)

お前は誰だ。そんな声が聞こえてくる。私は盛岡Yのリーダーでもスタッフでもない。学生YMCAのメンバーである。しかも今年の春に卒業し、「若手シニア」という烙印を押された存在だ。半ば複雑な心境である。そんな私に本稿の依頼がきた。何をいまさらと思う一方で、卒業後も私のことを覚えていてくれたことがとても嬉しかった。このつながりを大事にしてくれる盛岡YMCAのリーダーやスタッフのみなさまに感謝である。

私が初めて東北の地に足を運んだのは1年生の夏である。ボランティア活動がしたいと思い立教YMCAに入学した私は、活動の一環で岩手県宮古市を訪ねた。未曾有の被害をもたらした東日本大震災から2年半が過ぎたその時ですら、震災の爪痕は物理的にも精神的にもいたるところに残っており、圧倒されたのを覚えている。この時の気持ちを忘れず、それ以降も何か役に立つことがしたいと思い、長期休暇を利用して何度も足を運んだ。

3年生の春。これまでのスタディーツアーのような学習メインの訪問ではなく、宮古のアドベンチャーを企画し実施することになった。野外のリーダーを経験したことがな

い私たち関東の学生YMCAのメンバーは不安でいっぱいだった。そんななか出会ったのが盛岡Yのリーダーたちである。盛岡Yのリーダーたちは、一言で表すと変人だ。それもとびっきりの。写真を撮るときはいつも変顔で、みんなで一緒にバカやっていて、移動中の車内ではどれだけ疲れていようと楽しく話が始まる。どちらかというとお堅くまとまって生きてきた私にとって、これまで出会ったことのない人たちだ。でも笑いが絶えず、どこか人情味に溢れていて、頼りがいがある、結束力がとても強い。そんな居心地のよさを感じた。君でいいんだよ。その言葉が心に深く突き刺さる。私も盛岡Yにエンパワメントされた一人かもしれない。いま思うと人生を変えるほどの衝撃的な、そして運命的な出会いだった。

いろんな垣根を越えて誰かとつながるのがYMCAの良さだと私は思う。卒業して全国に散っても、かけがえのない場所がそこにある。そう感じている。





盛岡YMCA インターナショナルチャリティーラン 2017 大成功！！



インターナショナル・チャリティーランは、障がいのある子どもたちも、そうでない子どもたちも共に幸せに生きていける社会の実現をめざし、1987年の日本初の東京での大会以降、全国21か所に広がり、年間1万2千人以上の皆さまのご参加やご支援をいただいているイベントで、盛岡YMCAも今年第1回目となるチャリティーランを開催することができました。「違いを超えてつながること」の大切さを考え、「障がいのある人も、障がいのない人も、互いに思いやり尊重し、幸せに生きて行く社会になるためには何が必要か？」を考えるきっかけになればと願い、様々なことにチャレンジしてきました。

9月10日（日）にはグルージャ盛岡さん協力のもと、J3の前座試合として「盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーランCUP」の名前で岩手県と秋田県の障がい者チームの試合を行い、その会場で来場者の皆様と「障がい」について共に考えることができました。そして、9月23日（土・祝）の「第1回盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーラン2017」本番では、たすきりレーランナーチーム数29チーム（チームスポンサー6チーム）、ボランティア数103名、その他来場者75名の全306名が、会場の岩手県立大学に集い、障がいのある人も、障がいのない人も、お年寄りも、赤ちゃんも共に笑顔になれるあたたかいイベントを開催することができました。

午前中には「たすきりレー」（宣言タイムレース）を行い、どのチームも仲間と共に走る楽しさや、チームを超えて励まし、応援することによりつながることの喜びや幸せを感じることができました。午後のイベントでは、岩手県立大学の学生サークルによるステージパフォーマンス（ダブルダッチ・アカペラ・手話・さんさ踊り）やドッグセラピー、車椅子体験、岩手県立大学の学生

サークルによるブース（ハンドマッサージ・バルーンアート）、そしてラッフル抽選（日本語で慈善福引）で盛り上がりました。

「カナンの園ヒソブ工房」と「杉生園」さんには屋台を出店していただきました。どちらも施設の利用者さんがそれぞれの職員さんと一緒に屋台を担当しており、焼きそばやお弁当、ポップコーンやジュースにソフトアイスなどを販売している顔はとてもキラキラと輝いてました。それを買うお客さんもなんだかとても嬉しそうでした。そして、「SEVEN FOREST PUROJECT」の徳田慎太郎さん・真理子さんには販売価格はお客様に決めていただく、100%ドネーションバザーのお店を出店していただきました。こちらの商品は零石、盛岡地域で開催していた「物々交換会」で集まったもので、お客さんは皆その話を聞いてびっくりしながら買い物を楽しんでいました。また、たすきりレーの優勝メダルと優勝・準優勝・3位の盾はみたけの園工房「来夢」さんに作成してもらい、当日授与式にも参加してもらうことができました。

様々な方達に支えられ、助けられ、共同し、第1回目のチャリティーランを開催することができ、成功に収めることができました。しかし、私たちの目標はチャリティーランを成功させることが目的ではなく、「違いを超えてつながること」「障がいのある人も、障がいのない人も、互いに思いやり尊重し、幸せに生きて行く社会の実現」です。これからも皆様と共にこの課題・目標に向かって進んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、チャリティーラン開催にあたり、寄付をいただきました企業の皆様、個人の皆様、誠にありがとうございました。

盛岡YMCAインターナショナルチャリティーラン2017担当主事
伊藤真太郎



学童保育ぶらいむ・たいむ前潟校 ワクワクのお泊り会！！

「わたし、絶対参加するー！」「わたしも～！」「おれ、お泊り会の時、この辺に寝る！」

前潟校の中では、お泊り会の2週間前からこのような会話が飛び交っていました。9月2日（土）～3日（日）、ぶらいむ・たいむ前潟校では、「お泊り会」を行いました。前潟校のお泊り会は今年で4回目となります。参加した39名の子どもの中には、初めて参加する子もいれば、3年連続して参加する子も数多くおり、俗にいう「リピーター」が多い事が特徴です。過去のお泊り会では1年生が寝泊りがまだ心配という事で、参加する子が少なかったのですが、今回は1年生の参加率が9割というのも今年の特徴でした。



年関係なく助け合いながら生活をするという機会に貴重だと思います。年に1回のプログラムですが、このお泊り会をきっかけに変化していく子どもたちを今までもたくさん見てきましたが、今回も子どもたちの「思いやる」「気付く」という成長の場面がいくつかあり、大変有意義な時間を過ごすことができました。お泊り会の話題は1年通して子どもたちのネタとなっています。来年も「わたし絶対参加するー！」「お泊り会の時はここに寝る！」という声が聞こえてくると信じて普段のぶらいむ・たいむを子どもたちと楽しく過ごしていきたいと思っております！！



ぶらいむ・たいむ前潟校
センター長 東森聡



初日は「フリータイム」からスタート！ ナイトプログラムで行う「出し物」を考える子が多く見られました。大学生リーダーと一緒に劇の練習を行うグループ、何やら怪しげなパフォーマンスを練習するグループ、遊びまわるグループと、それぞれわくわくの様子でお泊り会はスタートし、夕方から始まる「バーベキュー」もたいへんな盛り上がりを見せました。大量のお肉は腹ぺこキッズにかかればすぐになくなってしまいます。前潟子にかかれば、お風呂もみんなで入ればお祭り、ナイトプログラムもお祭り、消灯時間も静かなお祭りになってしまうのです！！



2日目、朝のプログラムの後の朝食は・・・本物の竹を使った「流しうどん！」おいしさと楽しさを朝から満喫しました。昼食はサンドイッチを作るため、みんなでお買い物をして、各々アイデア満載のサンドイッチを青空の下で食べました。

こうして、あつという間の2日間は過ぎていきましたが、普段、学童で過ごしている友達と寝食を共にし、学

第4回 チャリティーバザー 開催！！

9月10日（日）、向中野センターを会場に盛岡YMCAチャリティーバザーを開催いたしました。今年でバザーも4年目を迎えましたが、今年では150名を超える方が当日来場してくださり、お陰様でこれまでで最高に盛り上がりを見せた1日となりました。今回はバザーコーナーはもちろんの事、屋台コーナー、フード&ドリンクコーナー、ゲームコーナーなど様々なコーナーを用意し、各コーナーをワイズメンズクラブの方々、ボランティアリーダー、スタッフが分担して担当し当日までの準備を行い、当日はボランティアで参加してくれた学童の子どもたち、高校生のユースリーダーを交えて運営を行いました。

朝は雨が降ったものの、バザーを開催する時間にはすっかり晴れいとお天気に。そのお陰で、12時30分から13時30分で行ったかき氷のタイムセールには長蛇の列ができ、たくさんの方にかき氷を食べていただく事が出来ました。寒かったらどうしようかと



思っていただけに、本当に天気にも感謝の一日となりました。

また、バザーの際の飾りや商品・値段などを表記したポスターを向中野校、盛南校のスタッフ・パートリーダー・学童の子どもたちと一緒に、日々の保育の時間の中で作成したり、ボランティア

リーダーが学童に来て、当日の手作りの品販売コーナーで販売するミサンガの作成を子どもたちで行うなど、バザーを成功させるにあたって子どもたちが本当に大活躍してくれました。

今回のバザーの益金は92,268円となり、すべて2016年4月に起きた熊本地震による被災地への支援のため熊本YMCAへ送金させていただきました。来場して下さった方々が来てよかったと感じてくださり、ボランティアで参加してくれた子どもたちが誰かのために働くことの喜びや来場して下さった方々への感謝を覚え、その中で生まれた今回の益金が一人でも多くの方々の助けとなる事が出来れば本当に幸いです。今回のバザーに関わって下さったすべての方に感謝を申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。



盛岡YMCA向中野センター
センター長 小川嘉文



☆8月アドベンチャー 活動報告☆

こんにちは！ショッカーです！私からは8月のアドベンチャークラブについて報告させていただきます。

8月のアドベンチャークラブは、「目指せ！源流！沢登りに行こう♪」ということで、区界の開伊川へ沢登りをしに行きました。当日は、子ども13人、リーダー7人で行いました。行きのバスでは、リーダーや開伊川に関するクイズをしたり、歌を歌ったりしました。区界高原ウォーキングセンターに到着すると皆素早く準備を済ませ元気に沢登りに出発して行きました。道中、カナヘビを見つかったり、大きなきのこを見つかったりして盛り上がりました。また途中、道の真ん中に生えている木を使い、お題を決めて左右どちらに行くか遊んだり、歌を歌ったりしながら



進みました。水晶の森では、皆夢中になって水晶を探しており、見つけた時にはとても喜んでいました。雨の中、ゴツゴツした道にも弱音を吐かず皆最後まで登りきり、開伊川の源流にたどり着いた時はとても達成感を感じていました。また同じグループの子に声をかけるなど気を配りながら登る様子も見受けられ良かったです。低学年の子も最後まで頑張って登りきりました。か

ぶと広場でお昼ご飯を食べ、少し遊んでから下りました。下る頃には雨も止み、良い天気の中皆元気に出発して行きました。下り道では、行き以上に大きな笑い声が響き、賑やかな雰囲気の中帰って来ることができました。帰りのバスでも楽しく話したり遊んだりしている姿が見受けられました。

今回のアドベンチャーは最初雨が降っている中でしたが、途中からは天気にも恵まれ、怪我なく無事に行うことができました。普段なかなか体験することのない沢登りができ、1日自然を満喫することができたのではないかと思います。



20人という人数でアットホームな雰囲気の中、楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

岩手県立大学3年 伊藤陸（ショッカーリーダー）

10月の予定

- ★10月1日(日)
サンデースクール
「ステンドガラスクッキーをつくらう」
- ★8日(日)
宮古野外活動
- ★11日(水)
水曜水泳 休講
- ★13日(金)
金曜水泳 休講
- ★15日(日)
特別プログラム
にこにこファミリークラブ
ファミリーアウトドアクッキング
～バーベキュー作り～にチャレンジ～
- ★17日(火)
火曜水泳 休講
- ★22日(日)
盛岡YMCA設立記念日
- ★29日(日)
アドベンチャークラブ
「焼き芋! 芋煮! 秋を感じよう」

表紙の写真から



盛岡YMCAインターナショナルチャリティラン2017での1枚。走り終わった6年生が頑張る1年生の横で一緒にゴールを目指します。1年生も、いつも遊んでくれるお兄さん、お姉さんが近くに来てくれて安心したように走っていました。



君でいいんだよ ～JUST THE WAY “YOU” ARE㊟～

「ひよんたな」?

盛岡弁に「ひよんたな」という言葉がある。「変わっている」「妙な」という意味だ。「おめー、ひよんたな奴だなあ。」(お前は、変わった奴だ)とか、「ひよんたなこと言うなあ!」(変なこと言うね!)という風に使う。

かく言う僕も小学校、中学校時代、友人や先生からよく言われたことがある。ところがこの言葉、言われた本人からするとそんなに悪い気持ちがない。おっとりした盛岡弁のイントネーションのせいもあるが、当時に暖かい愛情がこもった言葉のように聞こえていた。少々変わった面倒くさい性格の僕をこの言葉を発した人たちは「しょうがないなあ」と思いながらも、やさしく諭すように包み込んでくれていたように思える。

ところで、現代は「変わっている」と言われることを極端におそれる社会になってはいないだろうか? 多数決が絶対のこの社会においては、多数を真とするがゆえに多くのことを一般化してしまいがちだ。そうした一般化された中にこそ安心があると信じる社会は、そこからはみ出す人間を常識や、社会通年に欠けたもののようにフィルターをかけて扱ってしまう。

しかし、長い人類の歴史に目を向けるとこうした名もなき「変人」たちが人類に多大な貢献をして来たことがうかがえる。火を初めて使った人間、大漁を求めて大海原に船を漕ぎ出した人たち、ナマコやウニを初めて食べた人間?(珍味を味うということでは大貢献だ!) などなど。

このように一般からはみ出した変な人たちの間には、硬直した社会をプラスの方向に変える力を抱く人間が潜んでいることをかつての地域社会は経験則として持っていたのではないだろうか? だからこそ、そうした人たちを守り、育む文化や風土を知らず知らずのうちに形成できていたように思える。そのおこぼれに預かり、社会を変えるような力はとんと持ち合わせてはいないが、傷つくことなく、なんとか思春期を乗り越えることができた僕は盛岡の街にとっても感謝している。

「体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。」

(新共同訳聖書 新約聖書コリント信徒への手紙 12章:14節～)

盛岡YMCA総主事 濱塚有史

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 9月報告書

夏休みも明け、宮古の子どもたちは真っ黒に日焼けし、元気いっぱいいわばくでⅡ期を迎えました。

サッカースクール中はⅠ期まではできなかったことにも積極的に挑戦し、サッカースクールが終わってからはリーダーと暗くなるまで野球や鬼ごっこ、ブランコなどして遊びます。

サッカーもリーダーも仲間たちのことも大好きなみんなは、準備や片付けも上手になってきました。何も言われなくてもコーンやピンスなどサッカースクールで使う物を車から降ろし、ボールの数も数えてくならないようにします。Ⅱ期からは試合の際に使うゴールも自分たちで設置できるように頑張っています。

今年の宮古サッカースクールの目標の一つは今年開催される「盛岡YMCAチャンピオンズカップ」で連覇を果たすことです。サッカーの上達だけでなく、仲間を思いやる気持ち、仲間とともにサッカーをする楽しさを、普段のサッカースクールか

ら感じ、今年も宮古旋風を巻き起こしたいと思います。

盛岡YMCA宮古サッカースクール 担当 向平悟



トライシクルとは、直訳すると三輪車という意味で、小型のバイクの横に2、3人乗れる様な車がついたものである。タクシーに比べ安価で近距離の移動によく使われるという。ジブニーというのは、ジブを改造し、後部を長くして人がたくさん乗れる様にしたバスの様なものだ。日本のバスと違うところは、ジブニーには停留所がなく、路線上であれば好きなところから乗り降りできるというところだ。これらはとても便利で地域を支える移動手段であると感じた。

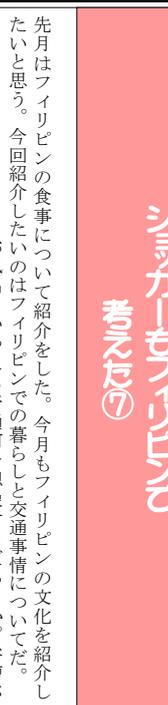
日本とフィリピンでは大きな違いがあり、それぞれに良さがあると感じた。

岩手県立大学3年 伊藤陸(シヨッカーリーダー)

先月はフィリピンの食事について紹介をした。今月もフィリピンの文化を紹介したいと思う。今回紹介したいのはフィリピンでの暮らしと交通事情についてだ。

お風呂といったら普通何を想像するだろうか。浴槽があり、シャワーがあり、暖かいイメージではないだろうか。しかし、フィリピンではこのイメージとは大きくかけ離れている。私が向こうで体験したお風呂は大きめの桶に水を張り、そこから柄杓で水を被るといったものだ。最初このようなお風呂を見た時はとても衝撃的だった。水を被るのも、水風呂に入る時のように気合いを入れてから被った。普段、日本のお風呂に慣れているとフィリピンのお風呂にはとても驚くと思う。しかし、フィリピンでもあまり大変ではないとのことだ。私自身、水を被るのも徐々に慣れ、暑い日にはむしろ気持ちよくなった。だがもし、日本のお風呂に慣れているお風呂に入り自動でシャワーからお湯が出てきた時は、改めて恵まれた環境にいるのだと感じた。

次は交通事情についてだ。フィリピンでの交通はとても「入り乱れている」と感じた。そう感じたのも普通車だけが走っているのではなく、たくさんバイクや、トライシクル、ジブニーが走っていたから。また歩行者も当たり前のように道路を横断しており、その様な様子を見たため入り乱れていると感じた。



シヨッカーメンバーのみなさんへ お知らせ⑦

〈お知らせ〉来月号からNEWSのデザインが変わります! お楽しみに!!

- 感謝 (2017年度9月26日現在) 敬称略
- 維持会費
- 木田泰之、光永尚生、花田瞳、小笠原真紀子、東森聡、伊藤眞太郎、伊藤愛美、尾形裕一郎、家村知佳、小川嘉文、小川明佑、魚住恵、長岡正彦、斎藤恒夫、濱塚有史、濱塚真美、濱塚恵太、濱塚直樹、濱塚牧人、濱塚秋二、濱塚れいこ、熊谷大樹、松松桂子、熊谷太、増田隆、田村治之、嶋丹谷三子、大開瑠一、北田アユ子、熊谷力貴、川坂保宏、名古屋恒彦、工藤あさひ、高瀬稔彦、早坂春希、熊谷一郎、村田深雪、及川孝彦、遠藤昌樹、神田権三、伊藤眞一郎、伊藤眞一、飯島隆輔、一戸貞文、人見晃弘、吉崎陽、森山日菜乃、森山幹大、滝川佐智子、林辰也、中村渉、浅沼慧、角谷晋次、古澤伸、上中優奈、齋藤之彦、南原良哉、伊藤克見、井止修二、井上優子、井上浩太郎、重石桂司、清水治彦、水田賢次
 - 寄附金
 - 光永尚生、花田瞳、熊谷大樹、松松桂子、熊谷太、増田隆、熊谷力貴、早坂春希、伊藤眞一郎、伊藤みどり、人見晃弘、角谷晋次、伊藤克見、水田賢次